明治二年巳日記

乙之部

巳従七月朔日

(四)

重

八月
九月
十月
十一月

共

東

早稲田大学図書館
文書27
A27
1

七月朝日雨

早起七第小林澤政瑞戰死ス一周忌ニ付
幸ニ參詣焼香招魂傳瑞ト面會旁ゝ時茶呑
馬上與禅
廣澤兵輔ニ上地振殖ノ為メ第ん不在宅乃チ第
馬上ニ而第ん不在宅乃チ第
庄田六先未澤義去月九日
吉井友実澁沢ニ而ノ
友孫江人池田景雄
二而晴
庄田ニ而屠牛旧民幼ニ而
晴

庄田六先着京

君上御参朝

森三郎来於若松

薩士肥ヨリ書生七八名入来頻ニ朝鮮路梗ノ
事件ヲモ含ミ魯西亜ノ力ヲ仮リ
登山ヨリ兵ヲ以テ対馬ヲ侵ス形勢ヲ窺ヒ
魯西亜ヨリ大ニ東洋ヲ
睨ミ露艦ノ押ヘノ為メ土木ノ工ヲ興シ人民ノ
移ヲ禁ジ英佛ヨリ兵ヲ出シテ報告ヲ以テ
肥前国ヨリ松浦ヨリ松浦ヨリ
ヲ為ス
廿日 蒸暑甚シ 馬上流汗淫夜
七日晴
東風春雨ノ吹入ヲ防ク一雫
七夕佳節ヲ他国ニ客ノ害ヲ
侘ル一雫

当ル英国ヨリ露東ヲ窺ヒ
度ヲ一ニスルノ約ヲ
八日晴暑 暑気甚シ
七月ノ条ヲ九ツ国破レ伊森ヲ
十九ヲ仕度ヲ持ヲ来ル
ヲ
飛書ヲ突天ニ
対馬ノ使ヲ
杉尾隼人ヲ国境ヲ
ヲ晩餐一ツ
ヲ真ニ墨江ヲ

齋藤之汁
古用号

後藤板垣参
與國政免

○

西七月八十梅雨降　百木ろん

打ち悪気矣事

行政官ゟ宣政官書ろ知事縣廳ろ届書来

齋藤ゟ汁古ろ之事

時気ろ十二ろ流水ろ通ろ閉塞ろ之ろ

ゟ之ろ安降ろ之ろ

伊藤ゟ也ろ命ろ公事ろ来ろ

ゟ之ろ降ろ之ろ

古州中納言ろ極機密ろ関ろ書

参與木ろ奉ろ郎後藤象次郎ろ保前藤

板垣退助ろ西ろ久世中将

行政官大勲位

外務大丞ろ出仕
榮ろ英國王子ろ
神水ろ為飲ゴレ
ろ主張
後藤ゟ之ろ
兎戯ろ齋ろ事ろ
不相成ろ

左参與免職ろ事件ろ極機密ろ関ろ書

英國王子参朝ろ就ろ

ろ之ろ名会根元ろ来書中古画

古画幸ろ浅ろ時ろ

ろ之國哲ろ名ろ

追記ろ一条関係ろ

十日曇

早起ろ雇ろ趣ろ

徘徊ろ之ろ

築用掛ろ

品物ろ包ろ

ろ戯ろ

岩倉ろ廻り外夷ろ

岩澤町ろ

ろ之ろ

ろ

君上帰米沢
留守供帰国

明日御発駕ニ而五ツ半
十一日晴
八ツ時ニ
八字内着
年内恙無
芳翰駕ニ而機嫌
午後毛利ヨリ酒ヲ贈ル
免職事件ヲ決シ
黄昏菅野后ノ二男ヲ
憂家憂ヲ
行掛ヲ
十二日
行々賛ニ
毛利ヨリ鶏酒澤山ヲ恵
小刀二本ヲ
庄田ヨリ民部
面ヲ機嫌
隔ル事
十三日非常暴風雨
一昨夕御芽駕ニ而御書
雪天ニ
敗屋乱飛
ヲ御
井

八字内着
林亀ヨリ
黄昏開ク
小屋ヨリ
御免
お屑ヲ
歎息
開ク
暫ク
前例
井

三ツ半ニ
献上三ツ
ヨリ来
延引ニ
大屋組合ヲ
稽留
別ニ
上ル
秋田ヨリ

御発駕ニ而
御芽駕ニ而
御書付ニ而
御屋敷ニ而
御屋敷ニ而
御発駕ニ而
御芽駕ニ而
御書付ニ而
御屋敷ニ而

次日我邑又有怪事之シ池ノ与他分ン一笑ニ供ス
御蔵番所の座書を行政所にて花柳にて御弟子材厚ひ
御門鑑札ヲ殺害御印にて世の両所にて盛場始めて御門に
通切ニ許可ん諸人に端を混雑に乗し通じる最中茶屋
一人もあらず侮りに候ひに大風雨に天邑に於てみ封
御鐵一段役目怪子一段之より顕せて実に目仰
気とて聴き陽に扉ニ因テ之ヲ腹ノ与懐
收め地だんに積のみとあるべく験出にタリモ
時懐中に見えた事も涙し世印やとミテ秋
佛に何事像よ行札木に荷物に為を話ケ動ある
多く始ある札と金札一両分計り授みし懐中
持ちの内ニモ扉陰に横木ニ掛ケテ財傲談

同職之験則は後ヘクリ定印せしなり然
ニ大平ニ為て氣付けし其後時ニ鑑札免
し給ひて出札もせし時に茫然自失茶屋より
遣ハセニ当兵ニ喧一代打診されたりまよと
ニ近頃鑑札を利益と為り鑑札りて情ろ家主ゟ
請を遣ハセニ鍵ニ扉陰ニ打ち掛け見き之人ある
見よし紙く花比を天下銭の幣を貯へ者し扉
陰為に行形に調べ政も物し手に取しなら
ハ二寸厚す寸も強く子物柳に懐中より出しなり
笑し可如なり前後に室であぬしとり拾ひし
人は雑俳ハ地ニ御調べ得陰まし又は茲耳に飛ニ
姓名たひとの心ある人をは他ヲも笑ん所に屋躯しき和

とゝのひて天晴ゝ
たるそ秋冷を覚ゆ
し秋初と云ふ

○十五日
朝お向方伊藤の書状ともを
午後新宿ゟ豊島
水流ゝ住頭を
如し昨夜風雨修橋
比ろい其情景宛ら

豊島ゝ流渡
○十六日晴天
一昨夜も利根の大
ゝ如き事ゝ
行程ゟ暴雨ゝ
遅緩ゟゝ
昨夜ゟ
天外ゟ降ゝ
覚ゆ
岩の黒ゟゝ
四達新橋

○十七日晴天

午後大槻氏宅ニ至リ先伊藤國報早退ニ付為
メ事務多端ノ時ニ来ル遂ニ終ニ墨水避暑小梅
ノ小倉庵ニ到ル楓湯ニ浴シ樓上ニ登ル涼風清氣
人心ヲシテ爽然タラシム況ヤ月出東山ノ上ニ
スルヲヤ且ツ船ヲ浮ベ酒ヲ酌ミ十客ノ妓ヲ擁シ
水ニ臨ミ山ニ対シ月ヲ賞シ風ヲ納レ清興
興ヲ添ヘ歓楽ノ極リ実ニ此ノ如シ夜半ニ及テ
漸ク帰ル

十七日

一行政官ニ出頭シ昨日勅答書幹事傳達所ヘ進呈ス
一金札融通ノ儀評議アリ

十七日

一行政官ニ出頭シ昨日勅答書幹事傳達所ヘ進呈ス
一金札融通ノ儀又ハ國ノ富強ノ術ノ如キ
一帰路森寺ヲ訪フ不在即チ築地邊一鞭疾歩午前帰
邸

十八日

一中川屋ヨリ勘定ニ来ル金札ノ儀ニ付相渡ス
一大瀧新十郎帰邸ニ付相渡ス
大槻ノ飯ヲ喫ス
夜雲大ニ雨ヲ

一日粕儀後殿ヘ行政官ヨリ禮服御用ノ旨申來ル

十九日

日粕今朝行政官待詔院出仕被仰

晩方日粕ヘ六老以下被相招參會ス

二十日

二十一日晴天

午後ヨリ日粕同伴ニテ森寺ヘ誘引ス

三条公傍ニ在テ密談

日粕儀ハ気毒之事ニ付宅ヨリ一駕

笑入浴

二十二日晴天

午時參内

午睡被賜ニテ一眠モ利ヲ貪ル

一今朝書状ヲ不杜宅ヘ

一今朝市内別着家書ヲ受ル

一元締所ヘ行金札二十枚請取

一御家老ヘ行御挨拶

一モ利ヲ訪ヒ御挨拶

一岩倉公十七日ヨリ參

一大久保廣澤參會議ニ出ル

一後藤象ヨリ二十七日ヨリ

南部左内皆轉封延引ノ儀ヲ

吉九日木戸孝允大久保利通東ヲ訪ヒ

参ル筈ニ

仲業

十五
一廿両 酒券
一二分 大豆
一二分 畫帖
一一分 飯
十五両 一七両
一五両六分 二十
二十三両 一七両二分
一三分 發
一七両 飛脚
一三両 筆
一十三分 筆
一三分 傘
一三分 祝
一二分 菓 蝶代
〆九両二分三朱
一二両 藥品
一二両 花代
一一両二分
一二分

一晩方芳川ヲ過キ芝ノ名山台泉沼ニ寄リ夕刻帰ル

七月

一十七両 官ヨリ十五両借リ 一二十両 御預

一三両 自分十七両 本借リ 都〆七十圓

二十四日雨

一谷守部ヲ訪ヒ森行人ト倶ニ二十日ニ据ル湖亭ニ酌ム

三重數輔森ヨリ羽織地ト縮緬一反ヲ送ル

二十五日晴

以ル英國王子横濱ヨリ來ル

理髪シ大齋ト吾門外ニ駕シ師ト北郭ニ馳セ生ト増他人擧

村章ト柳ト茶店ニ一誰ニ一書ヲ投シ小娘周旋ス樓

ニ登ル大清ト共ニ數酒ヲ行フ此日也鬱氣不散 梨花

理髪寫真梅登ニ登リ金亭ニテ一酌黄昏蝦樓ニ歸ル此夜

大清孝根浦西ヨリ至リ事アリ角門ニ至リ後安送来ル

十夢來ル帰助天已ニ四鼓ヲ告ク書フ

大瀧來ル

二十六日雨

雨天寂寥午後久我大納言ヲ訪ヒ深川ノ事ニ議ス

朝ヨリ出掛[illegible]ヨリ宅ニ至ル[illegible]深川事務局ニ越ス

[illegible]久我殿ニ[illegible]

[illegible]遣シ酒飯[illegible]十時[illegible]

[illegible]雨天[illegible]歸ル

二十七日細雨陰

一小川[illegible]四十[illegible]不在宅[illegible]

甘粕曰の誤り
甘粕来
申出書を
訂正ス

誤字訂正
誤り書ス

一今日四ツ半より毛利男爵後藤男爵約束之事
五ツ半頃
二十八日晴北西
甘粕出勤新任副官ト改名
勝之助来ル甘粕曰ク満洲事変ニ際シ後藤等ト意志
合ハ満洲ニ於ケル一切ノ施設ヲ
シテ両国ノ為ニ指導セラレンコトヲ
英国ヨリ勲章ヲ参朝
国ヨリ勲章ヲ参朝
二十九日
家書ヲ認ム
豊前大平
家書ヲ認メ中食ヲ終ル
小川六兄同伴森有礼氏ヲ訪ヒ七時帰宅ス
常地尚系統ニ通ズ二通ヲ訳ス
常地尚系統ニ通ズ二通ヲ訳ス
伊藤博文ヲ訪ヒ一時帰宅ス
常地尚系統ニ通ズ二通ヲ訳ス
八月朔日晴
杉山等ヲ通ジ各方ヘ広島ニ赴ク旨ヲ告ゲ
午後二時ノ汽車ニテ小川六兄同伴
出発ス見送ル者数名アリ

外國ヲ切迫ヲ告ケ
陳者別紙
[illegible]
[illegible]
[illegible]

廣沢参議ニ行

小川六兵衛

九ツ時

小川六兵衛同伴廣澤參議ニ參リ先日ハ
ちと失礼ニ而參ニ而ハ御ひる之上謝辞ニ而
參り候ニ付御逢ニ而參ニ付元ニ戻り
まちあひ人日和澤村ニ而

十日晴ず

三條殿ニ而ニ木村寺ニ而
勇ニ丹ニ而ニ敗ニ而
も村ニ而後ニ而ニ和泉文ニ而
頂ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

十一日

小川六兵衛

大潮ニ付ニ而

十二日

小川六兵衛無沢ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

十三日

午前ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

小川帰米沢

ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而
ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而

十当而
午後矛刺ゟ来ル晩来雨ニ而夕仲秋之月影不見
杉山屋ニ而大潮ゟ坂来話
腸胃不調ニ而八幡参詣振カヘ
十二日陰
午前有栖ゟ誘ニ而金三十匁ツヽ発ス
内藤ゟ書状来
午後依渡板矛刺大潮ニ而箱ヶ谷ニ而田舎漁ニ而小魚ヲ得ル
香坂ゟ来ル
午前理髪ス
十三日雨
大風一昨夜ゟ雨降ル裕ニ而来ル二百文掛
内藤ゟ八日出之書状来ル
香坂出立
八月十八日曇
今日先立大峠嘉内出立、牙書状ヲ
昨日竹股迄ニ而着ス
十四日雨
杉山軍監ゟ代理ヲ命ス
ゟ木下三平ニ而ヲ
一寸粒参薬ヲ
一昨夜ゟ雨降ル
あゟ舟渡ニ而ヲ
帰ル
森ゟ
公用人代理
木下三平
佐山伝平ニ
ゟ来ル

う坂下就馬石川清之助等ハ御所を
所司代を襲ひ奉らんと謀りしが
ならず帰りて會津へ走りぬ
この天下の協和繁榮在
平政の行はるゝ陰士と盡力并に
おの〳〵所見ありて及ぶ
我等し徒輩の月ヶ関四ヶ
ら人大に驚き或ハ
甘露ヶ屋三右衛
十九日
一兵部省より四方へ布告
書ありき
一十津川士深瀬仲麿と云
ハ神代神能と一軒を
ハ甚だ難き勢ひなり
討長州人ハ原市之丞
恒堂ニ出ル暮方
むさゝ士大山の元ハ
書類ハ一切焼
中ゟ斬奴ハ

一午後理髪ニ心斎橋
牧野ニ行ク途中ニ
木戸準一郎ニ逢ハ
一十津川士深瀬仲麿と云
ハ神代神能と一軒を
ハ甚だ難き勢ひなり
討長州人ハ原市之丞
恒堂ニ出ル暮方
むさゝ士大山の元ハ
書類ハ一切焼
中ゟ斬奴ハ

羅紋書

辻蔵と連絡

北蝦夷ハ未タ境界決定不成一國ニテ方四百里
今回魯西亜ハ力ヲ昨年ヨリ用ヒテ唯今開墾度御座
ニ付キテ我之方ハ不相關我進第ヲ以テ撫用ニ
ニ係リ辞表差出セリ
蝦夷地ハ開クニ付無商人（所謂請負）ト云者ヲ廢シ村並ヘ改セシ
直ニ右關ヲ皆ニ除キ無商ヲ廢セシ
昨年請負箱館ニ集メテ凡金千萬米四千俵其他
諸之不安金穀ヲ以テ一戸ヲ建テ果シ旅ノ迴船ヲ待チ
是又良民ヲ移ス事ハ到底不成已ニ先年箱館ヨリ九
春古澤七百人遣シ何ヲ殖民ニ付テ業後二三年
前後歴年ニ二十萬人ニ至ル書ヲ出シ實際
以人世ヨリ案シ人民ヲ移ス事ヲ請フ

杉山ト華而待ノ村目林ニ同行シ稲刈見乞又快ク早林

廿一日 午前陰 午後晴

一 午前木下杉山ニ来話

一 待詔局出仕高田藩竹田村雄庄内藩松本十郎ハ
今般蝦夷開拓判官被命竹田ハ宗谷松本ハ根室出張ニ付

一 午後外出谷守部ヲ訪安井仲平翁ニ面會ス

一 毛利恭助ヲ訪後藤象次郎其他来會盡ク酒宴夜ニ入ル

以書状問

一 岩倉家臣古澤迂郎ヲ訪石巻縣出仕ニ付不在

松浦武四郎封後

松浦武四郎意見今般長官任候段申立候人ニ面會談
蝦夷ノ儀ハ三十年餘北地ニ志シ居候談話ス
元蝦夷地十一國ニ分割致シ郡縣之制ヲ立ント云是言

参議大久保
市藏初對面

一勝茂州ヨリ参議大久保弟気ヲ振ヒ初メ面会ス暗夜来
来淳ト情実ヲ多細ヲ尽ス勝モ多事来淳英情ヲ生悪説
ヲ聴来ヲ大久保ニ説祖跡ヲ策大ニ暗者来長国ヲ粧ヒ
上坂ニ義ヲ奉シ出境ヲ我家ヲ捨ヲ事ヲ攻ム
来長ニ罪ヲ謝ス次ニ寧ニ中ヲ西端ヲ抱キ
事到ル此恰ヲ白ス恰ヲ武門ニ帰
ヲ事ヲ大久保モ大ニ感ス
ヲ地図ヲ勝ヨリ其證ヲ淳切ニ
ヲ自ヲ勧ヲ薩ヲ後ヲ来ヲ
立来ヲ来人中有名ヲ利ヲ奥羽
ニ人才ヲ大久保ニ説ス仕ル
事ヲ郷友ヲ見ヲ形勢ヲ推移ス
中ニ廟ヲ設ケ戦ヲ祈ル越ノ巨魁ヲ誅ス其ヲ
ニヲ海勝ヨリ書ヲ与ヘ姑ク
事ヲ奥羽連合書ヲ与ヘ
世良大山下参謀ヲ遣ス書面ヲ黙割ヲ即チ
謀ヲ深ク沈勇ニ且ツ衝ニ
ヲ敵ヲ制除セシ其節ヲ
帯刀ノ命ノ時ニ陸奥ノ
連ヲ連合上奏ヲ事ヲ
ヲ書ヲ大久保ニ
ヲ従ヒ大久保ヲ説ヲ
大久保ヲ議ヲ
依テ出処ヲ
仕ヲ南都ニ

勝ニ於テ話サレシ
勝海舟辞表提出ニ付用駿州大兵事ヨリ小兵事マテ勝海舟ニ委任シ且
静岡藩臨時遠慮無ク城ヲ去ル事ニ付キ有文勝海舟
元ト三千石ニ五人扶持千石ニ不過、五人扶持ヲ与ヘ千石ニ付三人扶持
一倍増シ三千石ニ十人扶持勝海舟ニ来リ三百石ニ三百俵ヲ給シ五十七万
俵ヲ以テ役料ニ充行ヒ臣扶持米ヲ渡シ其内ヲ以テ役人ニ給与
ス役料ヲ給セス涯計ナク遠慮シテ役人五千人ニ宛テ
ナリ役人ヘ支給ス役料ハ二十八万石ニ宛テ扶持ハ一万何千人ニ
役義事ハ大久保一翁岡鉄舟
山岡鉄舟ヘ申付ケ其集ルヲ義トス
二十二日雨
幕史ノ一架ニ付板垣図書等ヲ

甘粕斎藤筆
板垣面會

一 当日ノ次第
午後二時ヨリ甘粕実斎藤両人土州板垣退助ニ面會ス
呉服橋大槌屋ニ集マル甘粕斎藤ハ律院ヨリ
直ニ集會ス大槌屋ニ着シ板垣後藤
新ハ中村幹三助毛利恭助ヲ来ル
甘粕斎藤ハ行院岩倉徳大寺ニ謁シ甚タ服
開陳ス余程遅刻ナリ
ヨリ舟ニ乗リ島形ヲ人ト
務メラレ候
亜細亜ノ政治ハ朝鮮及露国ト
戊辰戦争ハ切リ上ケ
海外ニ内乱再起

二十三晴夜雨

松本ヨリ野尻角兵衛ヲ経テ松本
西條主膳ヨリ書状来ル
脇興開拓ノ儀ニ付有志ノ者共ヨリ
之ヲ開拓セント欲スル旨ヲ以テ
豫覚悟之ヲ以テ就テハ先ヅ来脇
人ヲ以テ先ヅ来脇実況ヲ探索
作間着西京府判事ノ命ヲ以テ来開拓
歩兵一隊ヲ以テ西京ヨリ金十万両ヲ来四千俵ヲ有シ其他諸
金穀不少ヲ以テ東北ヲ鎮撫セント欲ス

従前ニ倍増ノ事

三條輔相公ヨリ英断ヲ以テ
某ヲ以テ廉ヲ以テ勤王ヲ方向ヲ示ス
於大阪海軍ヲ盛ニ
甘粕備前ヲ以テ陸軍ヲ
ヨリ以テ京ヨリ兵ヲ
京ヨリ財ヲ
酒肴ヲ二十樽ヲ
ヲ以テ

建築セシメ以テ全穀ハ地ヲ拂テ醜ヲ伴ヒ欺息之外ニ無他辭状態
ヒ我者西亜唐太島ニ兼テ猖獗窺伺ヲ立根底ヲ據テ始
而廟議紛紛開拓之議論ニ事ヲ以テ而候今何程ニ至ルモ
候後而來世變鑛之道理有之已ニ於我百
萬而丈の氣力ヲ以テ恥漸ク闢ケ事業ニ而嘆識者し
諸港無商ハ廢ヒヨリ荒無良民ヲ移シテ植開拓ノ途論總
ヒ而後ハ頃民ノ此以彼地ヲ見テモ開ケ事ニ無用ノ十ケ國
郡縣ニ於テ新立ハ定ニ布告ヲ発シ其土地ニ就テ諸居民ハ肥村鎮ニ
設ケ以テ實行ニ無屬ノ況ヤ良民移住ス商人共中ニ立テ役
所ノ勝手次第ニ恐ラクハ甚シキ事ナリ但シ彼地開拓於歟ト有之
當面ニ勤課ニ無用ノ氣長ク野趣ニ於テ其ヲ處置候得ハ見所
被成事ナ力乎ニ無用ノ松浦義切ニ嫌惧ニ無之候得ハ偲松

浦ヨリ新開ノ松本十郎共ニ到着ノ上初テ信ノ擬ス者
以前保ノ書以テ深キ候ニ持テ候已ニ學議大久保周候ト氣色
那般地ヲ視ル覺ヘ中其方ノ委任ニ就テ先務ニ因ル未事ニ土
地開割ノ基ト一刻早クモ不安機會ニ思慮ヲ致シ
勝房州モ共ニ十人萬百人ニテモ速ニ開拓ノ職ヲ捨テ永年不一
方國利ニ至テ其中ニモ不所置ノ候得ハ不所置ノ事ニ候得ハ不少
右申上候 年月日 姓名
岩倉輔殿 参議殿
其後右書面ハ差出シ不申候
甘稿参謀玉元ヨリ十七日付之書状ニ 崇世大病ニテ東京出
候ハ吸哉接待ニ三千日ニ至リ候歟旅ニ難儀ニ隠シ為別候
同所ニ致候 但昨日右下関ニ至リ候ニ而御覽ニ入候書一見

甘粕帰米沢

於退下

二十四日 雨

斡甘粕今一寸帰省ニ付今日於大久保参議談話一条尋問候処且
中々今ニ而相話ニ而承知し用談ニ付長尾亦与一同入浴ニ付長
坂ニ而種々議論ニ而對酌ニ而話 肝要之條

一米澤藩一国之方向を定ル事

一米澤国札を切り替ル事

一旗本地上様御取調之事

一米澤藩政改革之事

一人才登用之事

右等之廉ニ而今日評議致ス 午時発足 此レガ長ノ訣別ナリ

家書一封ニ出ス

附箋
相談日後雨
詳ニ因ル[illegible]
相甘粕君[illegible]
ニ付遣之也
去年以来初
ニ[illegible]大久保
原参議[illegible]
[illegible]
与伯ヤニ応
[illegible]
中ニ[illegible]
[illegible]

二十五日 終日風雨寒気甚テ 綿入ヲ用ユ

判官殿ニ栂尾郎下参大蔵省官員 下参ニ付従ニ而小夜ヲ
送ル而一条ニ付 不極ニ而中候

勝先生甘粕氏之論旨一条ニ付 趣ニ返答中ニ付来ル
ニ而昨日大久保殿ニ而着ニ付中ニ付 甘粕ニ面談 従僕
且時務ニ直談セシ 人史郷ニ尋ル 已ニ迫ニ今
喰ヤニ而皆 ○ 右筆 林藤七郎 出立
木戸参ニ甘粕伺ノ節ニ申候
午前木下三平先生 杉山氏茶話 ○ 伊勢原ニ社並ニ論
此議甚 集議院規則 [illegible] 本○晩方 入浴ニ行
四ツ右上地 [illegible] 書 [illegible]

二十六日 晴

木下茂秀　杉山同道にて昨夜一条両四番町船越等へ申入置
此夜面會に入廣澤仲蔵来る官邸定則倦り来
九段にて午飯食　○薩邸に到　有馬藤太を訪不在也
吉田御衛に到帰途南曹を訪申入右之件両者に申置
周旋之ことを申置候
杉山其外内田へ行内田平沢此時兵部省軍曹青田山崎發
岩崎彌太郎に面會昨年約措之事申置岩崎越後へ発足来月之事
此夜より当初ある所関係之嫌疑を避る事如何
杉山小濱縣権参事来る面會遂に不在也金吉に誘
土橋家に一泊同宿新宿豊田今橋に来る
二十七日　晴
午前也利に到り船越へ誤る事を謝し明に兵部省へ到る

後藤午飯後鴻様に到相談之事
一小生一身の進退米澤之方へ関係すること安易ならず仍る相
城之処其謀を聞くへき事
午後大塚廣澤へ同人相會談話廣澤仲周旋之事相談す
一大久保其他に同意に付退隠之事
関口頻りに訪来る石生宅北堂面會娘関口寛妻略述
州金谷に住居の由
勝房州を訪面會相談静岡一年出仕之義
海軍を申立方其他大久保其他に
兵部ペートル来る北地カンサツカ之消息云々野澤一
余は始終甚弱り兼て疆界之事人と兼山一兵
端の間の時面真に取る事如何勝安房

須佐帰国

二十八日 曇

三字大久保ニ参ル 昨夜ハ遅ク迄話ス

長岡ニ行ク 途中雨ニ逢ヒ不便

静岡ニ着ク 乃チ旅宿ニ投ス 夜ニ入リ雨歇ム

時ニ旅宿ヲ出テ 静岡牢獄ヲ観ル 誠ニ感嘆ノ外ナシ

旅宿ニ帰リ 直ニ出立 興津ニ宿ス

廿九日

昨夜ハ疲労ノ為メ 熟睡ス 朝六時ニ起ク

直ニ出立 由比ニ宿ス

三十日

関口氏ニ書ヲ贈ル 暫ク休憩ス

午後ニ至リ 一封ヲ得タリ 発地ヨリ来ル 精ヲ極メ 海名存厚ノ筆ナリ

発地ヲ指シ 行ク行ク 神戸ニ宿ス

神戸ヨリ 亦タ東ニ向テ行ク 雨ニ逢フ

途中ニ於テ 東京ヨリ来ル人ニ逢フ 互ニ消息ヲ語ル

由比ヨリ 興津ニ至ル 興津ヨリ清水ニ至ル

清水ヨリ 亦タ東ニ向テ行ク 雨ヲ冒シ 興津ニ宿ス

興津ヨリ 人車ニ乗ル 車夫ノ労ヲ憐ム

午未一駕ニ帰郷ス 旧国ニ到ル

故郷ノ赤心ハ 依然タル旧観ナリ

二日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五年 九月二十日 廿一時 …… 藩

到大久保参議宅

毛利恭助ゟ小南五郎右衛門の一書差出杉山ニ持参致し候て千住杉山

同伴毛利ゝ参り杉橋ゝ参会不在卯 八丁堀ゟ舟ニ而実山形の

岸田へ到り杉橋ゟ参会来宅せし 五ツ過迄深川高島屋へ到り

甲子楼ニ登り一酌 雷雨甚敷 小雨ニ相成帰宅

七日

一日大久保参議殿へ参上 会議有之 今夕刻ゟ大久保卿へ参

辞表書面遣すへし 但松浦附録紙立一束草案元園末ニ勘定

毛利下野諒言下事之候 但松下利兵衛年寄

且御出会あり

一夕刻ゟ麻布邸へ罷越 参上大久保参議卿へ面会

上殿坐敷へ案内ありて安藤甚葉茶ニ而深み候

膳ニ上ケ酒宴有之 一人ノ異人 二十二時 伊達出て

御持参 昨年出府致候世話いたし申候 一礼申述

坂本手坂太郎参り人物評論 但長岡河合継之

儀人物官軍隊長之首 且黒田弁すへし

候話ニ於ても昨年中難抱 第一等之評ニ一陣

大久保存ハ八月中模様候節勝て ……

段ヲ保ち此前途来 ……

甚心配

吉井ハ七月二十五日長岡之変 官軍敗軍ニ親王殿

二千人 …… 信濃川 ……

随而

黒田ハ小人数ニ而新潟松ヶ崎へ上陸 会津 …… 長岡 三方

長岡 …… 何時 ……

雲井龍雄来状
来澤

八日

大村藩記事

晩方馬ニ而岡仰様ニ参ル 本五郎
毛利若ヲ訪ル 先年御預ニ付代金子三十兩話ス 半
杉山毛利ノ事 就テハ下ノ事ニ付
原田宗助ヨリ毛利ノ件大抵
ナル旨聞ル 尤山内ヨリ話ニ而ハ無之 信吾
ヨリ聞ル 山内ヨリ話ニ而ハ無之 信吾
ナル舎シ 跡金子ノ事 尾
梅ヨリ 南ノ梅ヨリ 井水ノ事 原田ヨリ
九日晴
ニ付 九月末頃ニ 佳辰快晴 暮
半ヨリ勝先生ヲ訪ル 留守 蔵書ヲ
黒岡ヨリ 小川島ヨリ 証書 来ル
黒岡ヨリ 倫ノ 皇居ヲ 義ノ 山内ヨリ 義ノ 義ノ 鶴民撫育

十日雲
ニ付毛利原ヨリ 黒岡ヨリ 来翰
杉山ヨリ 黒岡ヨリ 勝先生ヲ訪ル
ナル旨 梅ヨリ 来翰 杉山ヨリ 金ノ 天気ニ付
毛利ヨリ 原田ヨリ 来翰 毛利ヨリ 来翰
大村藩記事 外二人 死 市ノ

小川来状来follow

十吉兩
杉山行芝澤雪渓宮
鍋島兩侯
湯川侯の家書を添
鹿本川元光
七月廿日
小川元之兩侯基陽快
諸侯
大參事權大參事書上ら
六元小參事
大參事一人勅
使
因州松大參事二人
大久保參議
勅使
各國事務
先つ一人高知
薩州
勅使
隆盛
人材

協同潔白の為陰ながら恵ま
き決心を表出致しものより申出でも未だ
気分も決しる様な処なき事
都合もござなき為め事ござ
候へ共ト大ひ
夜九時過ぎ湯野川着ご
方ら散歩大抵ござ候。

十三日 晴

ホトヽギス協会森孝郎氏輔
モ和ノ協中村静ご
方ら散歩大抵ござ候。

月光好
雪時
早起我影白表行ホトヽギス
雨雲ござ候
お別ござ候
十四日 陰
朝公用人ござ候朝食おわり
ご公用ござ候
報知社機関発刊ござ候
夜部至秋ござ候
十六日晴雪

…薩州の別…三春…書…
…本
…春…ら…月…無…
海小舟泊…

十七日
集
…議院…釋…議…
…

十八日
…
芝…海…物不…黒…
松浦…郎…
…春…油…地…
…月…
…

十九日 晴
…
午後…
…
飯…
…

二十日 晴
晩方小川…

二十一日
…友上京…小島龍…
…
…
…
…
…
…
…

小川 片山 森

晩方入浴服右ニ飲ム 小川森両人ヲ招ク
来ル 片山同断
二十二日 小雨
ヒルヨリ 天気ニ成ル 午後ヨリ段々天気ニ成ル 晩方ヨリ散髪ニ行ク。晩方ヨリ体久保ヨリ九金ヲ借ル
二十三日
午後ヨリ海老原庸太郎ヲ訪ヒ懇談ヲ遂ケ 海岸ヲ散歩シ 夫ヨリ御細工師ヲ訪ヒ 夫ヨリ帰宅ス
二十四日
毛利ヲ訪フ 夜秋山謝ニ来ル 着ヨリ晩酌ヲ命ス
二十五日
御用多忙 稲荷祭礼

二十三年 二十六年 二十九年

後ニ板垣ヲ作ル 慨嘆ニ堪ヘス

御用多忙ニ付
二十六日
土州ヨリ板垣 薗ノ両人来ル 後藤ヨリ書面千右衛門ヲ以テ五千右
来人社務ヲ以テ招ク 晩方ヨリ出ル 大久保ヨリ呼ニ来ル 大事ヲ伝フ
川菊ニ於テ夜食ス 新聞ヲ見ル
二十七日
晴上 集議院行
二十八日
昨日ヨリ発熱ス 今朝ニ至リ尚ホ甚シ 小川ヲ呼ヒ診ヲ乞フ

刑法ニ処セラレ仕官ヲ禁ゼラル

小出政吉七年徒弟の修業時代

小川帰米沢

大政振興の事業に際し大隈侯より仰付られ
し上京御役に感じ奉り日夜寸暇を惜まず
早速当着仕候事に御座候。小川事追々御
奥羽地方鉄道敷設の儀に付大隈侯
一層御尽力小出鉄次郎山田顕義
両氏も生前御尽力相成候事に
小川先刻当地へ参り候間
小川六先日御届申上候通り
参り候生間に合う様
能く後始末〳〵不相
当地の富人代理勤
不申候ては
六ヶ敷小川
十月中旬より
奏し候事と
天命に
真に感佩

廿五日 小雨

廿六日 小雨

廿七日 小雨

廿八日 小雨

廿九日 小雨

卅日 小雨

十月朔日小雨

吉井氏ヨリ阿部様ヘ御書翰ヲ以テ御行ニテ薩州ヨリ九州ヘ形勢ヲ概略談ニ及ヒ候ヘ共今ノ如ク無政府ニテハ天下ノ大騒動ヲ来ス乙未年ヨリ十三年ニ来ル丁卯年ニ至リテハ天下ノ形勢ヲ一変スヘキ説ヲ述ヘラル

會津ノ血統ヲ受ケ義ヲ尚ヒ人ヲ知リ士ヲ愛スル心厚ク容保公出陣ノ節ハ慨然

二日

杉山誠庵ヨリ御書翰ヲ以テ御帰京ノ事ヲ賀シ且ツ宮ヘ新刀ヲ献上ノ事ヲ周旋ス

三日曇

森孝太郎ヨリ地紙ヲ送ル河岸ヨリ来ル十二日迄ニ仕舞ヲ仕ル筈ノ処ヲ断ル

香舟魚不旋技流。流泳大江之気。俯仰乾坤。優游自得。

九州ヨリ仙裏ヘ

森孝太郎ヨリ来翰ノ返書ヲ出ス

四日 雨
朝より雨降又一日祝祭日の為め休
○五日 小雨
今日三條輔相公招宴ありて参会
せり 曩に石清水行幸の節も
是れ亦御使として内侍所の
御供を奉仕せり
四日依て東下す 西京市人大に
送る 食の及ぶ飢渇せんとす
程遠き事千餘里 道路険阻
百里無人 九州乃ち三條公を神
○六日曇 昨日三條公を神

杉山君昨朝来の談話書を持参
九金弄を願ひ夜分木下弘吉君
九日快晴
午前土方中将と騎馬
御邸へ参賀午餐
森寺ヶ原心和尚を訪ふ
十日晴
杉山行吉君より年賀
状来る
午後毛利子爵大阪
久々飲み明し黒田ヶ丘先生
玉助を呼ぶ三味線
ヶ原にて別し大隅君と
ヶ原の生家へ我家を
十五日
海晏寺紅梅盛
引き続き四日参詣
御祭礼
お座付き義経千本
義経公御一代

人才策安在誰向紫宸献丹誠

勝先生へ書状ヲ贈

夜ニ入杉山黒田ヲ以テ訪不在　飲暮收

今日岡嶋到着　海老原華太郎来訪機密ヲ図

御先備ニ付当所ヲ真野藤助入澤俊吉ヲ以テ普請為致

候処其ハソヤノ談判等ヲ以テ機密其居ニ彼人ハ石井来ル

事ニ付地ヲ為スノ

大阪探偵十六日帰到着ニテ三浦清輝佐供ス

中條豊前守跡

十三日陰　今日ハ天気晴ニ寒し

夕方入澤十六郎ヲ以テ松浦武四郎ヲ訪ヲ又帰所ニ相ヲ

薩州屋勘兵衛来ル

木下集議院於テ白待詔局達書ニ付掛長調役帰

午三八出勤二七ハ宿ル

杉山ヲ以テ築地ニ黒田ヲ訪不在宅ニ帰

此夜兵隊巡邏寒風烈敷ニ付其後ニ大隊

頭元締並ニ致置候破カ廃スヘシ

十四日　風白

御病制額田大吉到着　家書并類同事話ニ為郵便治郎

内田新次郎茂卿ニ長事話

米澤ヨリ六大隊ノ兵ハ出張ニ付候ニ付遣ス

可憐ノ事ナリ何某

隊士ハ陶軍之死ス千徳ハ戍衛巡邏一式ヲ一大隊ニ供給

又ニ而ヲ一月何許ニ金ヲ供シ輸兵休養ニ路ニ一切宿

森寺濃州ヘ行ノ

大工共陸地引上家ム
後向ニ而ハ四軒ニ而
大久保ゟ職人事共
物ヲ少

一、朝寒風ニ而晩ニ吸ヲ食
食ノ築地ニ而黒ニ而
ゟ切ル所ハ光明寺ゟ中条大夫
十六日 晴

一、朝ゟ大潮ニ而
三艘ニ而
大殿様ニ而
前ニ而ハ金子ニ而
芳原金子ニ而
森ニ而ハ
森寺ニ而
森ゟ原ニ而
一、夕飯ニ而
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十七日 晴

一、朝ゟ大潮ニ而
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十八日 晴

一、夜ニ入
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十九日 晴

一、夜ニ入

中條三郎来ル
大殿様御着

河岸

三艘ニ而
大殿様ニ而
前ニ而ハ
芳原ニ而
森ニ而ハ
森寺ニ而
森ゟ原ニ而
一、夕飯ニ而
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十七日 晴

一、朝ゟ大潮ニ而
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十八日 晴

一、夜ニ入
一、夜ニ入
一、晩方ゟ
一、夜ニ入
十九日 晴

一、夜ニ入

小島集議院ヲ放逐

諸侯ノ擧

京師表ノ嫌疑

一小島議官ハ去ル廿日集議院ヨリ退院ヲ命ゼラレ昨廿一日ノ朝ハヤ其姿ヲ東京ノ地ニ見ズ昨夜ノ中ニ横浜ヨリ蒸気船ニテ出帆シタルヤノ風聞アリシガ其実ハ如何ナル事情ニヤ未ダ詳ナラズ

一中島信行氏ハ曾テ脱藩ノ罪ヲ犯シ其後大政復古ノ前後ニ於テ勤王ノ志ヲ表シ且ツ諸侯ヲ説キ諸侯ヲ会シ以テ王政維新ノ基ヲ開キタルノ功アリシヲ以テ今般集議院ヨリ退院ヲ命ゼラレタルハ如何ナル事情ニヤ未ダ詳ナラズ

一中島氏ハ曾テ脱藩ノ罪ヲ犯シ其後大政復古ノ前後ニ於テ勤王ノ志ヲ表シ且ツ諸侯ヲ説キ諸侯ヲ会シ以テ王政維新ノ基ヲ開キタルノ功アリシヲ以テ今般集議院ヨリ退院ヲ命ゼラレタルハ如何ナル事情ニヤ未ダ詳ナラズ

二十日

一杉山ヲ集議院ヨリ呼出シノ事ニ付キ判官ヨリ左ノ命ヲ退院ヲ命ゼラレ昨廿一日ノ朝ハヤ其姿ヲ東京ノ地ニ見ズ昨夜ノ中ニ横浜ヨリ蒸気船ニテ出帆シタルヤノ風聞アリシガ其実ハ如何ナル事情ニヤ未ダ詳ナラズ

二十一日 晴

一朝毛利[馬]ヲ以テ左ノ通リ命ゼラル

其方儀ニ付キ兼テ人望候所ニ付キ此度一定ノ國憲ヲ立ラルル為メ議官ヲ命ゼラル

一昨夜杉山両局ヘ出張ノ為メ一定ノ國憲ヲ立ラルル為メ議官ヲ命ゼラル

一午刻ヨリ行幸海軍観艦 松岡掃部 船越衛

二十二日

一 野老利ゟ訪ふ毛利薩州邸ニ行く杉山亦来ル 其外ゟ輔。
相謁ス。聞ス。既。 午後ゟ 飛鳥山ニ赴ク
一 数寄屋河岸舟宿稲屋ニ而小島山蔵ニ寓居ス 同断
菊池訪酒ニ而罷ル 一 来ル 對話 夜ニ入ル 杉山同断 罷
帰ル 毛利ヘ出 杉山之相談ニ 毛利ニ贈ル 短刀 子彫 杉山之
村正ノ短刀 秘蔵ノ品ナリ

二十三日 晴
一 早起 毛利ゟ訪 昨日来 京師 ... 候 ... 身
刀 村正ノ短刀を毛利ニ贈ル 毛利 ... 月山ノ銘
短刀を贈ル 事 毛利 ... 議 已ニ 済 直ニ 三條公ニ 呈ス
ル事
三條公ヘ上杉老中面会ノ儀毛利周旋之由
一 森寺ニ而 北邸ニ同道 太宰 好都合 ... 西 ... 近公 ...
し 情実承ル 談 ... 帰路 ... 文 森寺 ... 寄 ...

風邪ニ而不相勝 ... 對談
一 夜 ... 井寅次郎 三條家用人 書状相添 毛利ゟ 来ル
大 ... 杉 ... 坂 ... 井 ... 之
一 宇佐美 ...
二十四日
一 三條家ゟ 先達 ... 便 東 ... 同人 ... 公
用人 ...
一 三條殿ニ ... 使者 ... 勤 ... 文 ... 井 ... 面会 ...
毛利ゟ ... 書状 一件 ... 談 ...
... 座敷 ...
森寺 ...
一 肥前 ... 公 ...

三條家ニ而昨日延引ニ付其儀ニ而談之使者ニ而勅使古
川與一對談而退大納言殿ニ而申上候事
一 右事件傳奏御用中庶子ゟ以申上候事
一 午後出門手紙甚ゟ條公ヘ參候事
一 大納言殿一橋様ヘ被越直ニ三條家ヘ被參又佐両人佐井
寅次郎柳原衡平抔初更迄轉相公方對話ニ
退散ニ相成り直ニ歸宅ニ及候
一 此度伊庶子ニ傳命
一 信井ヘ書状相頼ミ先刻之差上候事 大ニクツロキ候事
晩方大坂ゟ帰ル土州ゟ申来
一 今日皇居待着之事候事
廿四日
一 参殿御前ニ而良弼ニ御面談之処御談示
一 中條大夫三縣赤木南宮志土佐越州ゟ来ル
下村義ヘ謙蔵ヘ案内談
一 三條家ヘ御使者ヘ御禮使者ゟ御綿佐者持参段々勅
一 森参候誓書京師一件之儀並ニ京坂案
一 御昵懇疏書待取置進達之事候事
一 大坂様御昵懇可談観楓之為ニ候
夜六ツ帰り
廿六日晴
一 信井ゟ参る下村左門 廣助ゟ 來訪一宿南屋赤木三藤
佐路出内段両人左公方達而御頼ミ御縣外
四迠ゟ大兵衛ゟ義養ゟ赤木三藤杉山鉄榮一同拜

赤ら毛利侯松岡播磨ら集会す四参両條新次公閑
大木参議小子芸藩吉原
杉山源之助一昨夜真木山城ら携帰る筈なり
日ら早天ら拵ひ
夜来雨ら飛ぶ風強し
知行拵ひ出勤ら筈ら
二十七日曇
信井ら新潟ら来る
毛利侯ら明ら御辞中迄
下村ら利ら参る真木輔相岩倉ら参中
薩ら勝山大塚ら参る振ら後北ら
来る明ら朝ら長ら参る
二十八日

角権早ら出生ら
昨日天機ら伺ら暇ら為ら
大坂拵越前ら参る。土州寛堂ら
木滑松大参事ら引ら
三條ら真書引来
卿光両輔ら出
卿ら
大坂拵ら

木滑来訪

三條公三十三歳
大政奉還ら
此ら庚午ら

老公ら隠園
ら帰国ら十四日ら

岩倉へ差遣

一 木梨利降 松岡楠 佐藤 集議ヲ以テ西條新次公用
大久保 参与 小子 芸藤 言廟
杉山源 来ル一日ヨリ 真木 物産 掛廻ヲ以テ
明日早天ヨリ 横浜ヘ 差遣ス 依テ
一 夜陰 南禅寺ヨリ 旅宿ヘ 帰ル 但
処々 行橋 出来 行キ 次第 通
二十七日 曇
一 信井 新宮 渓次 参与
宅利 参朝 退出 御 酒肴 下賜
下村 宅ヘ 行 直ニ 輔相
一 南禅寺 勝山 大塚 参
第四時 長 会
東井 来ル

木梁来着

一 三條公 三十三歳
大殿様 五藏
老公 出張 御
二十四日 帰

一 大阪 楠 横浜ヨリ 松平 加賀
二十八日
一 朝 晴 午後 雨
昨日 天機 伺 暇 為 御
大坂 楠 越前 来 報
木梁 松平 参事 引 前
三條 楠 直書 到来
一 朝 晴 午後 雨 暴風
州 光雨 暴風 止 暗
南 参内 御 一入 結
二十九日 晴
外 引 大阪 楠 参
山島 大蔵 大阪 楠 参 宿

十月廿日

公ヨリ六ヶ條陳輔使ニ差出ス 龍ニ於テ纏メ方ニ付
七卿落兵粮他ヨリ画策シ日本ニ待ツ 御座候
要之件ハ何レ申上候 前ノ如シ
廿八日
二白 明日ハ守護之兵花鳥山ニ花見ニ江戸ニ参候
御帰国ノ仕事ハ未タ其ニ決ナラス 御帰
恨ハ絶ヘ居候
宮崎井上様　　郵拝

右書翰ニ云字ハ此等ノ来ル旨也 一読何斯悍
死去到ル 更ニ卿内ニ於テ右者志ヲ尊シ無両
目嗚呼国ニ無人ものなり

我為ニ改革ヲ遂 相成

十二月朔日
当月ハ寒風ノ催シ家老兵隊木曽ヨリ出生
ニ上京達候
金小判　　　五千枚
右ハ永蔵ヨリ持参 日光ニテ
諸兵ノ事ニ付 時ニ此ニ於テ不如 就 ニ於
木曽柏木等ヲ上京ニ上リ判事ヲ差シテ 若公方ヨリ
手紙ニテ御指図ヲ 三ヶ條木下ノ人小笠原ヲ作リ木下
御差遣ニ成ル 小川小笠原等出地上ニ於テ杉山一人
ニ於テ御取ニ付キ人々ニ於テ其事ヲ指揮シ道
ニ当月ハ御小判五千枚ノ載ニ来ル
一 相果三百両ヲ被置死ヲ防ク

片山帰米沢

一 松本隆ニ片山謹按ニ面会致杉山ニ存在而尚中
　此面会之節ニ長老参り候ニ付其意を承り候事
一 当時諸藩
一 去東土陸万隊等以去后一和ニ退隠之故ニ
　晴天当国ニて大将之事　将軍家御手附
一 十字ニ由島氏より勇底ニ沢囲を飲謀せ之
　山内ニ轄テ住候ニ付藩ニ規則ニ而拘禁致置与申候
　八雲理ニ付罰入難懐ニ依而年来之事

諸藩改革
老公收着事

一 吉田ニ於テ朝廷大久保ニ而参朝ニ相成候由
　毛利と談 杉山先ニ在房ニ而国事相談候先ニ
　老廃ニ手向ケ候ニ而気運ニ見テ高ニ申ス
　切迫ニ及ト云々

一 杉孫七郎入来 長州藩ハ上京ニて兵斬罷ニ付
　過日品川弥次郎野村靖伊藤薩摩ニ而噂
　長州ニ於て同風ニ相成候 薩摩ニ而ハ達ス也
　長州ニ而ハ薩摩ニ付 長崎ニ而ハ是迄国論
　二途ニ相成 又ハ攘夷ニ一派ニ起リ 木戸等之国ニ
　大ニ変動ヲ見ル 大ニ為致候 嘆息致一条ニ付
　其上ニ薩摩ニ付而 長州ニ而ハ為ニ薩摩ニ
　其上ニ国事ニ於而ハ是迄之所而見込
　薩州ニ而一途ニ国事ヲ運ニ付而ハ大ニ異ナリ
　有之

一 杉山ニ而ハ退ケ 鎮台ニ候得共
　六ヶ敷シ

十日金曜

三条公爵等、仕丹宮御
宮ノ御事ヲ奏上ス
秘書官、条公爵ニ謁ス
興隆閣政治人才登用
策閣議ニ上ル
岩倉公爵、仕丹宮御
宮ノ御事ヲ奏上ス
秘書官、条公爵ニ謁ス
興隆閣政治人才登用
策閣議ニ上ル

大村敬

雲屋と雲石と利用保大抵
役渡と回備お互起正義徒
お府と到也

陽明大抵と共に沢海を
入獄いたし甚心配致大
生いで病を魅と面会
沢海無罪と到と弁を尽し
亭と云ふ如き関を第
懇接と趣以的深愛

八日晴

早天尓欽雲江泊舟残雪
を払ひ書斗を一吟。南岸
梅村と共に岡会す

拙行李を買整大抵
杉山旅中に来泊
改革一条を決行旅と改
於大誠新十亦来泊挙盃回
十二字木沼拉夫事
談決一条の深く決一刻と
亦宜変誠

九日晴と

早起洗面朝飯を
理基と帰舟を促す杉山お実と
ら助ると完成に上陸入
次渡と乗舟旦数条巡察扱と康勝拘引と

之ヲ白ヘ[illegible]諸藩方志之者ニ[illegible]西目藩卿ニ問ス
去ル[illegible]ニ[illegible]

十一月九日

晴
[illegible]在職中

[illegible]

杉山口津ヲ利[illegible]南海観潮ヲ利[illegible]
[illegible]上[illegible]数[illegible]氣[illegible]松岡杉花

十日 陰

[illegible]杉[illegible]
晴[illegible]
晩方杉山[illegible]
晴先生[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
十一日[illegible]
[illegible]

十二日 晴

[illegible]松岡[illegible]秋田藩[illegible]
[illegible]
[illegible]秋田[illegible]
[illegible]
[illegible]一同[illegible]

大村ヲ斬殺ノ
モノ秋田人アリ
又秋田藩ハ
西洋嫌ノ一
党アリ初岡
等ナリ後ニ
[illegible]同斬
ナト申スコトヲ
以テ土佐ニ権ヲ
失ス

被召候処
大蔵新十郎親権大夫ゟ当月十日付之書状到着之節御用有之候
国之為ニ存詰職ヲ勤メ候門閥廃止之義ニ付事既ニ陳述有之
之仕法之儀深慮之旨御内意被仰聞候処先行不行届ニ付
同様之人望有之候ニ付御内意之趣木部権大参事
評議之上相成候少生御用所へ伺候事

○十二日曇 之天
杉山ゟ申来候ニ付書生御内意有之候旨之事ニ付遅刻之事
候処御沙汰之旨書生舊学之事又一層権大参事
御内意之趣御達之旨承知仕候処去ル廿日市陰建議之通
市陰惣監之事ニ付権判事迎参候ニ付附先達而差出置候
本節之事一郎

某木部ニ参り右者此ニ付候ニ付御用所御沙汰之旨本日
然る上ハ杉家之処も図書之節之事此際引出し
到来候処氣屋之事一本行之由文之
一機密之事於是之事之事青蓮
浦田之御用之事之事壹岐陰
其儀之事
木陰筆談院不審之処御沙汰之事之遅延之為
之此度ニ付杉山書生之処木陰其節之
藩治之儀ニ付書状之通病気不参之事此節
之事之義内情権判事之人一此通筆十日之由是迄
木陰陽国権判事八郎之人大蔵之由
此様之処其申候大蔵壹岐之事

本藩情勢騒

切迫無識
動天地泣
鬼神ー

候御上陸ニ付又々龍頭ニ参リ拾十字形ニ建置候
之有処就御郷兵合木偶ニ集リ御従僕ニ渡置候
所ノ事ノ一ノ市内ニ参リ御休ミ候

十三日 雨

毛利早天ニ此處ニ集リ内談ノ大隊ニ到リ文跡ヲ追撃
之方ノ告ヲ長門ノ末諸士ノ参集掛ル山ノ麓ニ集リ
候ニ付落ニ上ル第一兄之迄一通リ古行付切腹ノ候識
申上ル覚悟ヲ去後ノ候ハ其段御処分之偏ニ入候
奉存候所ニ付彼ノ踏ミ掛リ山ノ我ニ集ル
其後ニ相成候事
廿日 大戦我ニ而寫ニ有
晴 手負多シ 十五日ニ集リ毛利
末 我藩政事ノ里ニ寄リ切迫ノ事

山家雪
音信もなき人のみならず山里の
雪にうもれ行
軒の松尾
露花

御名代ニ而掛抗頭参ル迄ニ而龍頭ニ而御用
一 肥田濱五郎川ヲ蒸気舟ヲ以テ御国ノ門下リ
築地ニ而御同行ノ御用ハ成ル故ニ伺フ様可致
一 横濱ニ而築地ニ而御尾張ノ講ク事
一 蘭船ニ而八百弐拾両ニ而四百弐拾両ニ藩下地ニ而
百九十萬両ヲ役料ニ而請ケ候 僅ニ相成候
役料百三千両ニ而両信ニ而 諸部
人氣甚宜ク候
一 海外ニ形勢ヲ洞察シ嗟一同ニ路ヲ差
其後上辭ニ而解ク一藩ノ
有之 護衛ニ而後ニ事 数

十四日 晴

第弁ノ婦事
我ニ在リ何
ニ盛初ノ事ナル
哉ヲ知ラス

知事料ニ干而後ニ事ヲ処スル
時ハ往々ニシテ機ヲ失スル
甚キニ至ル嗚呼ニ覚ル所アリ
ト雖モ其ノ機ヲ失スルノ
後ニ於テ永ク之ヲ悔ユルト
何ソ異ナラン

十四日晴 午前十時大風
長沼良秋来訪ス 昨夜ノ飢餓
不快ヲ訴ヘ来東梅吹ヲ覚
ユルヲ以テ之ヲ慰メ且ツ
ソノ病ヲ診察ス

板田保安氏ヨリ右同断ノ
ヲ報ス 午後ニ至リ
ソノ病ヤヤ軽シ 杉山ヨリ
モ長岡ノ実況ヲ報シ来ル
板田ヨリ報ノ来ルヲ待チ
ソノ後ニ出発スルノ予定
ナリ

奥平謙輔

永我隊ノ各隊ハ既ニ
会津ニ到ル 城ヲ
杉山ニ守ラシメ 庵原
ニ

十五日

天明地震 午前六時
大久保参謀ヨリ来電ニ
軍相公南海ニ
黒田ヲ以テ川若ヲ以テ
阿蘇ヲ守ラシメ 杉山ヲ来ラシム
薩兵ノ即刻引揚ヲ
門閉廃止ヲ発令ス

從ニ華頂準十人 吟ある 快庵ニ開ク事
小川少參事ヨリ去未来四ケ年ニ西班牙ノ學且傳回
奮發氣象ヲ顯サンニ愉快ヲ憶ヘシ
森三郎 權少參事 御用 公用人表ヲ相闻ス
紀綱掌握シ 路ヲ内ニ取ル
於廣公ニ於テ大樹宗家重ニ汁ニテ馬ニテ俊并宮参上
於ル了ヲ左部ニ 棚橋衛東ニ参テ相願候事
森 魏ヲ面会 秘書ニ来ル事

廿二日 晴

權大參事 出立ニ付 大坂府まで送 護衛官居
途中 後井宮之祝ヲ同港ヤ
施而藥侍ニ移 同候

千歳 權大參事ニ閲来
櫻田邸ヘ移轉

御進見利善付入ヲ 權大參事 一条家ニ附
至ル宮并ニ申上候ヲ 茂ル 大閑アリ 銀ニ拝
先刻ヨリ出勤ノ事
以ノ麻布邸居ヨリ 外櫻田新賜邸ニ引移ニ付
中 於花房南邸圍之 不得ノ事
小生モ亦麻布南方ニ向ノ第六番 四疊 在宿寓
居ノ事

廿三日 晴

須田且ヨリ 長沼ヨリ 全快ニ西ニ 煩痛ニ参
夕刻早速 確山谷ヲ被召 閑居ニ 杉山左膝評判ニ 長沼ヨ
左藤 沼澤ニ 参入 半ニ 推ニ 頭長 出来 弟 是又 金子 書 妻
巡察 助職ニ 任 長沢ヨリ 自卯ニ 謁 モライ 云々 文 御氏

北廿六日陰

横浜沸騰之事上書

向梅ノ登り候ニ付花巻三名ノ内千字文ヲ申シ助郎

廿七日　風雨

午後若兵等ヲ返候ニ付防衛内々申出不氣分ニ為防ノ事

三郎ニ申ス乃弁ニ事

大隈公ニ申上心事ノ詞説感悦事

廿八日　晴

二時過七時来橋大参事ニ会ス熱ヲ入候米澤表出発ニ付之

事情早追極印等持参書類ヲ通達ス

於山崎ニ進行之安ニ進発一書ヲ序ス次第之事

断大参ニ於テ地ヲ申シ口地たり又内外ヲ双方正義

に於テ実ニ天下ニ対し始メテ寄ニ候之事

権大参事ニ面会申出之事

午後渡辺入来大隈ニ面会ス

晩方久保ノ家ニ参ル大隈直議ヲ論ス

小島龍三郎来訪

廿九日　晴

権大参事ニ面会中大久保三条公ニ面会依頼

大原十禮中了長沢究面会

過日旧会津屋敷

年以下部若失火焼失

疑延長

事

権井寅ニ出張ヲ議ス

皆井粕倉
於米澤卒
三十八歳

ニ及ヒ候所 如此 權田直助之面原践ニ至ル迄
拙者ニ而モ 三条公始 如此之儀有之候 甚者也
当夫不可計事ニ而 誠ニ若者等大勢相集候事也 但シ
此従勝之兵書来ル 故ニ然ル処也 大ニ致シ方
英人横本も参り候為 皇国之御用ニ相成
也 右之次第

十二月朔日晴 晩来曇 小雨 夜又晴
権大参事田渋 ... 勝田 ... 云々
之長ニ而 ... 勝ヲ ... 新前大政 ...
之後ハ 此三百 ... 不快ニ付 ... 一先静岡ニ而
... 之 ...
... 之 ...

保田直一郎来話 新ヨリ返答
勝野之窓中云々ト書 海軍之文調シ越之掛リし者也
横本等張流筆ヲ越シ 其外又ニ待トスル事云々
於此事一行一般 横濱ニ参リ候間 英人
英人蹴手ニ応セ英公使館 ... 英公使 ...
有ハ性質之悪敷者ニテ 英ニテモ甚悪ニ成リ候由 ...
之悪ク候 ...
相成候 十字 ...
候 西郷 ...
日本之旭 ...
...
...

四月廿七日 晴 北方より定刻着陣
晴山様四郎介様御参陣
二ノ時
探矢参事北勝先生外
湯野次高大参事様
御書上参候
酔客様方ニ井野宮様
御参陣ニ御祖歳大
引取
長沢宮助様
信井寅三郎様
少々飲ニ参
無
再ビ
外陣

惣ニ参ル様ニ
次第
三ノ時
吉井大弥様
大阪年刊
湯新次
大参事様
宮ニ参ル
神ニ参ル
筆山様ニ
大参事様
舞井市内

一旦宮下ニ至リ蓮池廟ノ脇ニ参リ候處[illegible]
時ニ[illegible]ヨリ能登ヘ參リ候
右[illegible]行人ニ而拝一見致シ候事

翌日[illegible]大風
[illegible]馬ニ乗リ[illegible] 長浜一里 映ル湖 由国[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]如ク
大[illegible][illegible]帰[illegible]三[illegible][illegible]
[illegible]土ノ[illegible]
[illegible]竹生嶋[illegible]

[illegible]阿[illegible]玉映小[illegible]
[illegible]池上[illegible]陰[illegible]小七[illegible]
[illegible]先[illegible][illegible]
[illegible]
[illegible]大風[illegible]

吉時之國表
[illegible]
[illegible]
[illegible]一日一[illegible]
[illegible]一國[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]太[illegible]
[illegible]

原四郎 高坂小五郎 輔吉 為子 小松 伺ニん
九字比散ル 陽郎
不来
八日晴
泗田鈴次郎 行助 ニ
九字比ニ雨書状ニ而泳ニ上ル 泳ニ而ニ
一大雷雨ニ而ニ
陽ニ而ニ
不来 高山内匠 ニ
ニん 紀伊守 ニ
此ニ雷ニ而ニ
ニ而ニ
陽ニ而ニ

泗田出発 北

ニ而ニ
ル 時ニ而 陸記
雲ニ 陽ニ
九十字早鐘ニ而ニ
十日晴
昨年戦争中ニ而ニん 新潟警察北ニ而ニ
ニ屋信ニ也ニ 巻機ニ陸ニ
又泗ニ而ニ
掛ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ
ニ而ニ

一身進退識
変ス是利ニ依候

然し此役之儀は衆ニ与り候も無益御用多く候
此旨候ニ付断り候也

十一日　十二日

十四日
勝山権四郎へ書状来、風邪之気味ニ付全快之後来ル
同日 戦争之由 歩酒之事
毛利家者共出生 右之様ニ相成 毛利家

十五日
朝 吉井幸輔 来 変已ニ著 大久保 金を遣し
来ル 勝安房 大久保 古戦 ...
同人旅行 世話致し ...

十六日

坂本龍馬は勝の
門人にて長崎
ニ而平生
やかましく

朝 吉井幸輔 大久保之使 入門 辞御役
同所 酒井家 美濃守 西直八郎 参
未だ 周旋 致候 早く 安心 致候
京師 ... 米澤 ... 陳方 ...
此件 ... 眼識も 開 ...

十七日 大風雨
朝 勝安房守 利 八郎を同道 批 勝海舟
... 世話 不 ... 指 ...
山岡鉄太郎 ... 勝安房 坂
肥州 ...
伊東尾張部 原田四郎 同 大槻屋にて
坂本龍馬 ... 中 ... 勝安房 ... の話

大久保黒田ハ御旗下ニ西郷御面會なり

為す佐井(?)巳郎三條家を随身すして壮年鋭気の
事もあらで(?)中村朝(?)の三條家居に来り佐井ハ
此頃(?)は兵庫(?)振起して絶海での気味あり

十八日 ○○○○○
大久保木戸黒田品川御[illegible]出帆鹿児島に
昨日三條岩倉ゟ相会國公使と談判始め[illegible]
了第のよし

十九日
野先利を訪不逢[illegible]面會す帰り品川を居合
[illegible]不逢して空還御途花月ゟ土州邸
出人て[illegible]の流御日

廿日

[illegible]

野先利を訪又兵部省ゟ御面會[illegible]
鎮中[illegible]

廿一日
野小川到着[illegible]千坂[illegible]自ら朝廷大参
事[illegible]選挙[illegible]
[illegible]何物[illegible]此事を構成[illegible]
[illegible]疑惑[illegible]小川[illegible]上京[illegible]
[illegible]小川の[illegible]精神[illegible]
[illegible]股を排撃[illegible]千坂を推出すと[illegible]
[illegible]
千坂を推挙[illegible]大参事[illegible]
事由を究探せんと早追にて上京せしか[illegible]

可言候然ル処面会ニ至リ到底収期ニ至リ候ハ築
地ニ於テ三條家ニ至リ佐井寅次郎ヘ面会致シ小川
小参事ニ面会ノ節ニ段千坂氏ヘ参ル事宜シク
原田何人ニ推挙ニ相成候ヲ尋ネタルニ三條公ヘ
論告モ有之候ニ付相談致候処然ルニ千坂稲村ニ差出候
収申候　佐井ニ面会致シ候
過刻廿六日大ニ於テ華族会館ヘ参リ候処知事ヘ面会ニ
御書翰并ニ御細書寄君披見ニ及ビ候度々御厚情ノ段
来陳ノ小参事ヘ面会ニ段々取計ノ段申上候
辰上刻出立ノ事ニ而参リ候ニ付寄君
ニ而申上候先年来ノ事ニ面シニ而申述候　謹言
如斯ニ御座候也

小川ニ面会致候
寄ニ陳年了
相達候モ
小柄一本ヲ
毛利ニ遣ス

十二月廿日
安房ニ識印ヲ授　佐井寅次郎
毛利茂卿ヨリ馬具ヲ借リ南海ヘ
廿一日
小川小参事ニ三條公ニ相渡ス事
集議院ヘ出木滑権大参事ニ面会ス
毛利ヲ訪夜小川ヲ伴毛利ヲ招キ
面対酌夜小川面会ニ而
廿三日
木滑権大参事ニ面会
毛利ガ断ニ而西野下村ヨリ書状来ル　小川

己丑 香山按察
庚子 香山按察

合八冊

己巳日記

共四冊
番外共四冊

早稲田大学図書館
文書27
A27
1-4